HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	楡陵のキャンパス
Author(s)	諏訪, 正明
Citation	北海道大学大学院農学研究科技術部研究・技術報告, 12
Issue Date	2005-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35471
Type	departmental bulletin paper
File Information	12_hajimeni.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

楡陵のキャンパス

農学研究科技術部長　諏訪　正明

札幌は豊平川の扇状地に開かれ、もともと楡の生育に好適の土地柄であると言うことです。楡の巨木が随所にある様を見て、ホーレスケプロンをはじめアメリカから招聘された人たちは皆、クラーク先生もそうだったと思いますが、故郷のニューイングランドを懐かしんで、楡を大事にするよう進言しました。本学のキャンパスでは今も楡の大樹が枝を広げ、語りかけます、「クラーク先生のLofty ambitionの教えを胸に先輩たちは、この札幌の地に北のアテネを夢見たのですよ」と。楡の効果は本学の特色です。このキャンパスで学ぶ学生たちの胸にも、知らずのうちに大きな心が育ちます。

明治３１年発行の『札幌農学校』と題する冊子には、「石狩原野を渡る千里の風は楡の木立を吹き抜けて崇高の曲を奏でる」と書かれており、そしてまた、「手稲の山並みを仰ぎ見る石狩の平原に位置する札幌こそが大いなる人材育成に好適の地である」ことを謳っております。

札幌は大きく発展し、学内外で高層建築が増えました。キャンパスのどこからでも手稲山が見えるとは言えなくなりましたが、教育研究の場として全国的にも稀有のすばらしさを維持しております。昨年の台風被害の爪痕はまだ痛々しく残っておりますが、それも時間が修復してくれるでしょう。

これに質の高い教育研究があれば鬼に金棒、自ずと全国から前途有為の若者が本学を目指すようになるでしょう。技術部への期待は大きなものがあります。皆さん方の自負と研鑽が大事であります。ご奮闘下さい。